

令和3年度 学校関係者評価表

<学校経営ビジョン(めざす学校像)>

令和4年3月15日

【学校スローガン】「海に学び 海をひらき 世界にはばたく」 生徒一人一人を大切にすることで、生徒がお互いを尊重し合い、支え合い、高め合う雰囲気を醸成し、基礎学力と確かな技能、豊かな人間性、規範意識を着実に身につけさせ、生徒の能力・適性を生かした進路を実現することにより、生徒・保護者・地域・企業の願いに応え、信頼される魅力ある学校をめざす。	
①	互いを尊重し合う雰囲気があり、安心安全な学習環境の中で、競い合い、高め合える学校
②	積極的に学ぶ意欲と態度を育成し、将来をたくましく「生き抜く力」を醸成できる学校
③	望ましい勤労観や職業観、忍耐力の育成等を通して、将来への夢を描き進路実現できる学校
④	地域や郷土の発展に貢献できる専門的な知識や技能を学べる学校
⑤	地域に根ざし、地域に開かれ、地域に必要とされる、信頼の厚い魅力ある学校

<重点目標>

スローガン：「新しい時代に対応した海洋高校ならではの教育の推進！」 ① 生徒にとって安心安全な学習環境の確立(予防的視点による一致協力した生徒指導) ② 産業教育審議会答申の具現化(様々な変化への対応と改善による教育力の向上) ③ 水産・海洋教育の魅力の発信(広報活動の改善・充実による入学者増) ④ 創立75周年記念行事に向けた準備開始及びび代船建造に係る諸準備	
--	--

<具体的な方策、評価等>

○評価 【 A:十分に達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:努力を要する 】

重点目標	具体的な方策	主な担当校務分掌等	自己評価	成果及び課題	学校関係者評価	
					項目別	総合
① 生徒にとって安心安全な学習環境の確立	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の周知徹底と新しい生活様式の実践力養成	環境保健部 各学年 各系	A	○県内の感染状況をふまえ、その都度感染症拡大防止について、生徒・保護者に周知し対策を行った。 ○昨年度末から昼食時に熟食指導(オレンジ・赤圏域)を行っており、効果が現れている。また、2学期から風紀委員会を中心にクラス巡回を行い、感染予防対策に係る注意喚起を行った。 ○校内における感染症対策も徹底され、新しい生活様式も習慣化されてきた。	A	B
	・ 外的常時指導 → 「行動目標6」と「ハンドブック」による、内規の可視化と学級・学年で差のない指導の徹底	教務部 生徒指導部 進路指導部 環境保健部 各学年 各系	B	○6つの行動目標「時間、挨拶、清掃、整容、礼節、言葉遣い」も3年目となり、生徒も習慣的にできるようになってきている。 ○授業態度については、学年会や教科会等で生徒の情報共有を行い、早期に対応することで落ち着いた授業が実施できている。 ○ハンドブックによる心得や諸規則の見える化を行い、全職員で統一した指導をすることができた。 ○校則については、生徒・保護者・先生方の意見を参考に、見直しを行っている。今後も多くの意見を参考に進めていきたい。 ○清掃では、急いで担当区域へ向かい素早く取り組むなど全体的に向上が見られた。 ○個人ゴミの持ち帰りについては指導が徹底しており、生徒も遵守している。 ○後田川清掃は、宮崎市公園緑地課と連携して円滑に実施できた。 ○情報の共有化が円滑に進んでおり、学級・学年間での指導の差は少ない状況である。 ●昨年に比べ問題行動(10件14名→14件21名)及び携帯電話の預かり(14件→23件)が増えている。次年度はさらに、予防的生徒指導を行ってきたい。	B	
	・ 内発的動機付け → 学習・生活面での自己肯定感の高揚、1年生への適応指導の工夫(専門授業見学、学年行事、部活動 等)	教務部 生徒指導部 進路指導部 渉外部 第1学年	B	○定期考査の成績不振者集会において、保護者の協力も得ながら学習の取組に係る啓発を行い、定期考査前に学習会を実施したことにより、成績不振者を減少させることができた。 ○海鳴祭(文化の部)の日程を12月に変更し、芸術鑑賞(音楽)を取り入れた新しい形で行事を行うことができた。 ○昨年度は中止となった1年生の企業見学を実施することができ、県内の企業を理解する良い機会となった。 ○1年生の専門授業見学も円滑に実施でき、類型選択のよい参考になった。 ○各学年ごとにタイムリーな学年集会・合同終礼を実施したことにより、必要な啓発や注意喚起を適切に行うことができた。 ●全国的な傾向ではあるが、部活動加入状況が低迷している(部活動加入率54.9%)。より魅力的な部活動情報の発信に努めたい。	B	
	・18歳成年への自覚と対応 → 内面の成長促進、主権者教育や消費者教育の推進	各学年 家庭科 主権者教育推進委員会	C	○3年生を対象に就職内定及び進学決定後の指導を充実させるとともに、外部講師を招聘し、社会人としての資質向上を図っている。また、1年生については、家庭科の授業の中で消費者教育に関する学習を行っている。 ○主権者教育推進委員会が中心となり、主権者教育の一環として全生徒を対象とした模擬選挙を行った。 ●18歳成年についての職員の理解が深まっていないので、今後も研修等で理解を深める必要がある。	C	
	・ 2分前予鈴の徹底 → 学びに向かう姿勢と授業規律の確立 + 落ち着いた学習環境の醸成	教務部 各学年 各教科	B	○予鈴が鳴ることにより、生徒及び職員も授業の開始時間を意識するようになった。 ○ハンドブックでも履修と修得に分けて説明を掲載したことで、生徒にも授業への取組、態度の重要性が理解できている。また、授業態度については、学年会や教科会で情報共有ができている。 ●授業への取組、態度が定まらない生徒が若干いたため、授業観察指導を行った。	B	
	・ 改訂「いじめ防止基本方針」に基づく面談・アンケート等による情報共有と適時的確な対応	教育相談部 生徒指導部 各学年	B	○学級面談及びいじめアンケートの実施が、いじめ、生徒の悩みや生徒間トラブルの早期発見に役立っている。職員間の必要な情報共有も円滑に行うことができた。 ○生徒の学校での様子や状況に関する情報を保護者と共有し、連携することで、丁寧な対応ができています。 ○問題解決のための職員間の迅速な連携や協力体制が構築できた。 ●インクルーシブ教育の職員研修会が実施できなかった。次年度は複数回行いたい。	B	
	・ 生徒会活動の活性化 → 主体的活動の促進・サポート、リーダー性の育成、効果的な情報発信、地域や他校(異校種含む)等との交流や連携・協働	生徒指導部	B	○昨年度に続き、生徒会担当職員の積極的な指導により、学校行事やHP上での情報発信等、主体的な活動ができるようになってきている。 ○始業式・終業式の生徒会長の話や、生徒会役員が校内放送を通じて生徒全体へ語りかける場面が多くなり、効果的な働きかけとなっている。 ○昼食時の熟食において、生徒会役員が音楽を流して熟食を呼び掛けるなど、積極的な発信ができるようになった。 ●新型コロナの影響から、ボランティア活動や地域貢献活動がほとんど実施できなかった。	B	
② 産業教育審議会答申の具現化	・ 質の高い専門教育・実習船教育等の推進 → 社会の変化への柔軟な対応と指導者として高い資質や能力の向上、課題研究等における指導力のさらなる向上による生徒の成就感・達成感の育成	海洋科学科 各系 実習船室	B	○課題研究の発表を、MSECフォーラム参加方式のポスター発表に変更し、次年度の参加について準備を進めることができた。 ○令和4年度入学生からの3科目「水産海洋基礎」、「海洋情報技術」、「総合実習」の評価規準を作成することができた。 ○令和5年度入学生からの教育課程表及びクラス編成について協議を行った。 ●専門の会議があまり実施できず、情報共有が不足している部分があった。	B	B
	・ 教育の情報化及びICT活用の推進 → 生徒・職員の活用能力の向上による授業等の改善、質の向上	ICT教育推進委員会 各教科	C	○昨年度から教室のプロジェクターやタブレット等が配布され、先生方も積極的に利用している。 ○夏休みにICTに関する職員研修を行い、先生方の資質向上の機会となった。 ●ICT教育推進委員会がほとんど開催されなかったため、次年度は組織についても検討する必要がある。	C	
	・ 「知財学習」の有効活用と実践 → 全学年・学校全体への拡充と導体制の確立、新商品開発	知財学習担当 第1学年 教務部 水産食品系	B	○水産食品類型の生徒(2～3年生)や1年生、同好会生徒への知財学習は、ほぼ予定通りに実施することができ、生徒の知的財産権に対する感覚の変容を促すことができた。 ○3年生の課題研究(総探の代替科目)において、生徒が研究、開発したROVがマリンロボットコンテストに出場し、実技部門で1位となった。 ●今後は、漁業系や機関系でも実施計画を策定し、全学年、学校全体をあげての取組に発展させる必要がある。	B	
	・ 「基礎学力養成講座」の設定 → 学習意欲・目的意識の高揚 + 上位者個別指導時間の確保	学校改革推進委員会 第1学年 教務部 進路指導部	B	○マナトレ活用した基礎学力養成講座を1年生から導入した。学習習慣の定着が実現しつつある。 ○国立四年制大学等への進学を希望する成績上位者への個別指導を行い、1名が長崎大学水産部に推薦入試で合格した。 ●基礎学力養成講座については、年度末にしっかり実施内容を検証し、次年度の改善につなげなければならない。	B	
	・ 類型・カリキュラム・観点別評価の研究 → 観点別評価の改訂(3観点)、類型と長期乗船実習の整理	教務部 海洋科学科 各系 実習船室	B	○基礎学力診断テストの結果から、2年次のカリキュラムに英語科目を入れる必要が大いだと判断し、カリキュラム委員会において、令和4年度(新教育課程開始年度)から、これまで以上に英語の基礎学力を保障しうる教育課程へ改訂した。 ○評価に係る研修会等を実施し、次年度入学生からの評価規準を整えることができた。 ●類型と長期乗船実習の整理については、学科再編ともリンクすると捉えており、令和5年度以降の改訂を目途に協議を始めている。ある程度の方角性は決まってきた。	B	
	・ 魅力づくり研究 → 調理師免許取得(専門学校との連携、他校との連携協力)による応募拡大、水産系大学進学への魅力発信及び指導体制の確立	教務部 水産食品系 進路指導部	C	○本年度1名、長崎大学水産部に推薦で合格した。 ●調理師免許取得(専門学校との連携)については、県外他校の実施状況等を研究した上で当該専門学校との協議・交渉を行ってきた。大筋の合意は得られているが、実施条件等を満たすための県内他校との連携協力を進めたが、単位等の関係でダブルスクールは難しいようである。	C	

令和3年度 学校関係者評価表

<学校経営ビジョン(めざす学校像)>

令和4年3月15日

【学校スローガン】「海に学び 海をひらき 世界にはばたく」 生徒一人一人を大切にすることで、生徒がお互いを尊重し合い、支え合い、高め合う雰囲気を醸成し、基礎学力と確かな技能、豊かな人間性、規範意識を着実に身につけさせ、生徒の能力・適性を生かした進路を実現することにより、生徒・保護者・地域・企業の願いに応え、信頼される魅力ある学校をめざす。	
①	互いを尊重し合う雰囲気があり、安心安全な学習環境の中で、競い合い、高め合える学校
②	積極的に学ぶ意欲と態度を育成し、将来をたくましく「生き抜く力」を醸成できる学校
③	望ましい勤労観や職業観、忍耐力の育成等を通して、将来への夢を描き進路実現できる学校
④	地域や郷土の発展に貢献できる専門的な知識や技能を学べる学校
⑤	地域に根ざし、地域に開かれ、地域に必要とされる、信頼の厚い魅力ある学校

<重点目標>

スローガン:「新しい時代に対応した海洋高校ならではの教育の推進！」	
①	生徒にとって安心安全な学習環境の確立(予防的視点による一致協力した生徒指導)
②	産業教育審議会答申の具現化(様々な変化への対応と改善による教育力の向上)
③	水産・海洋教育の魅力の発信(広報活動の改善・充実による入学者増)
④	創立75周年記念行事に向けた準備開始及び代船建造に係る諸準備

<具体的な方策、評価等>

○評価 【 A:十分に達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:努力を要する 】

重点 目標	具体的な方策	主な担当校務分掌等	自己 評価	成果及び課題	学校関係者評価	
					項目別	総合
③ 水産・ 海洋教育の 魅力の発信	・ 広報活動の抜本的改善 → 説明会期日の早期周知、中学校担当者の進洋丸乗船＋説明会、情報ファイル配付、HP＋SNSの活用や更新、中学校への担当者定期訪問、新入生と進路内定者の出身中学への近況報告 等	教務部 広報企画部 海洋科学科 進路指導部 第3学年	B	○コロナ禍ながらも体験入学を8月及び10月に実施できた。また、中学校の高校説明会にも積極的に参加した。 ○広報企画部が中心となり学校HPをリニューアルし、中学生向けを主体として図やイラストを多用したことで、より見やすく情報が豊富なHPになった。特に本年度は、YouTubeやInstagramを活用して情報発信を行った。 ○進路内定者に対して、出身中学校への進路内定の報告と近況を伝える葉書を書く取組を指導しているが、中学校の先生方からも好評をいただいている。 ●専門職員の担当割りによる市内中学校進路指導部との連携については、今後も積極的に継続して行っていく必要がある。 ●情報ファイルだけでなく、学校ポスターや学校紹介動画作成にも力を入れていきたい。	B	B
	・ 進路、部活動、資格取得等の実績 → 中学校での高校説明会等でアピール材料の積み上げ	広報企画部 進路指導部 生徒指導部 海洋科学科 各教科	B	○コロナ禍の影響により、就職面接試験をリモートで実施する企業も多くなったが、生徒は緊張しながらも真剣に取り組み、高い進路実績を収めることができた。 ○資格取得については、危険物取扱者試験やビジネス文書検定試験等で合格率が向上した。特に、1年生の丙種危険物試験の受験者及び合格者が増えてきた。 ●時期によってはインターンシップが実施できたが、コロナ禍で実施できないクラスもあった。	B	
	・地域社会への貢献 → 小・中学校等の水産・海洋教育活動への協力・交流、各種行事への参加・協力、多目的航海の有効活用	海洋科学科 広報企画部 実習船室	B	○理系の大学等を希望する高校生を対象に、進洋丸で体験乗船を行った。 ○夏休みに「海と日本プロジェクト～シイラから学ぶ～」のイベントに学校と進洋丸が協力し、小学生20名に体験乗船と講話、シイラのさばき体験を行った。 ○1校小学校の遠足の受け入れを行い、本校をPRする良い機会となった。 ●次年度は代船建造の期間となるので、多目的航海がほとんど計画できない。 ●次年度は、本校図書館の小・中学生向けの開放を計画している。	B	
④ 周年行事に 向けた準備 開始等	・ 校内準備委員会の稼働	校内準備委員会	C	●当初は、第6代進洋丸の竣工式に合わせて75周年記念行事を行う予定であったが、同窓会会長等と協議を行い、竣工式とは別に実施することとなった。 ●改めて校内準備委員会を立ち上げる必要がある。	C	B
	・ 同窓会との連携及び協議	同窓会事務局	D	●同窓会もPTA役員会等と同じく新型コロナの影響により、会議等が開催できておらず、具体的に協議することができなかった。次年度に状況を見極めながら開催したい。	D	
	・ 男子制服マイナーチェンジ＋女子制服リニューアル(ブラウス、パンツスタイル等)検討	生徒指導部 学校改革推進委員会	B	○制服の在り方については、今年度業者を含めた協議を進め、女子のスラックス(リッツスタイル)の導入の方向性が固まり、令和4年度入学生から購入が可能になる予定である(2～3年生の希望者も購入可)。 ●抜本的に女子制服だけでなく、制服をリニューアルさせることについて、デザインや価格の検討も含めて、生徒、PTAや同窓会にも広く意見を求めていく必要があるが、今年度は具体的な動きには至らなかった。	B	
	・ 代船建造に係る県教委・学校・進洋丸の連携協力及び進捗状況の確認等	代船建造委員会 代船建造専門委員会 代船建造作業部会 実習船室	B	○昨年度から代船建造の各委員会において準備をすすめ、本年度から本格的に建造が始まった。現在のところ順調に進んでいる。	B	